

移植医療に関する世論調査

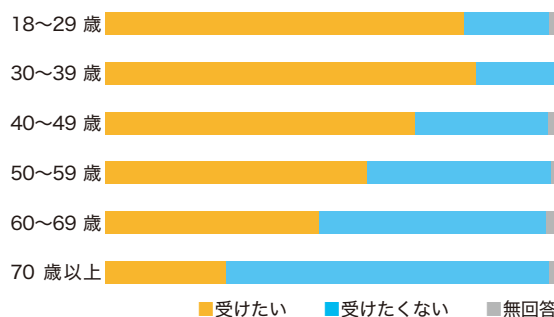
兵庫腎疾患対策協会 会長

吉 永 和 正

国が何年かおきに移植医療に関する世論調査を実施していることは皆様もご存じの通りです。手元の資料では平成 10 年、12 年、14 年、16 年、18 年、20 年、25 年、29 年、令和 3 年に実施されています。最新のものは令和 7 年 7～8 月に実施されたものです。これらの資料から国民の臓器移植に関する意識の推移を知ることができ、協会がどのような活動をするかを考える時の指標にもなってきました。令和 7 年の調査結果を見るといくつか興味ある点がありましたの紹介させていただきます。

臓器提供に関する意思表示をしている人の割合は、平成 20 年には 4.2%でしたが、その後は 10%前後で推移しており、令和 3 年も 10.2%でした。ところが令和 7 年の調査では 19.9%と大きく増加しています。なぜ大幅に増加したのかの分析データはありませんが、「臓器提供の意思表示方法を認知している人の割合」という調査からはある程度の背景を推測することができます。令和 7 年の調査では意思表示が出来る方法として増加傾向が著しいのが運転免許証の 66.6%、マイナンバーカードの 38.4%です。身近なところに意思表示の機会があることが影響していると考えられます。その一方で、実際に意思表示している人は約 2 割、この乖離をどのようにしたら埋めることが出来るかはこれからの課題と感じました。

臓器提供について（令和 7 年世論調査）



令和 7 年の調査でもう一つ特徴的なことは「臓器移植を受ける立場になった場合の意識」という調査項目が加わったことです。「仮に移植手術を受けなければ亡くなってしまう場合、他の人から臓器を提供してもらい移植手術を受けたいと思うか」という設問が加えられています。その結果は特徴的であり、グラフを示します。臓器の移植を受けたいと思う割合が年代別に示されていますが、若い世代ほどその希望が高いことが分かります。最も高いのは 30～39 歳台で 82.5%です。

これに続いてもう一つ興味ある設問が続きます。「自分が移植を受ける患者になる可能性を想定した際移植を受けたいかどうかを考えた時、それが臓器提供の意思表示を考える際に影響すると思うか」というものです。これも世代別に前問と同じ傾向を示しており、全体で 61.5%の人が影響すると答えています。

これまで、ドナーになることについて議論を進めてきましたが、レシピエントになる可能性も同時に考慮することで意思表示率が上がる可能性があるとは私は解釈しました。それも若い世代においてその傾向が強いと言えます。移植医療において、すべての人は助ける側にも助けられる側にもなりうるという視点で議論をなげかけてみてはどうでしょうか。特に若い世代においてその議論は有効であると今回の結果から感じています。

ご案内

映画 **たしかにあった幻** 上映会&河瀬直美監督トークショー

芦屋市民ホール ルナホール | 入場料 1,000 円 2026 年 9 月 26 日(土) 13:00~15:45

日本での臓器移植への理解と移植手術の普及のためにフランスから来日した移植医療コーディネーターの女性が主人公で、日本での様々な体験を通して「人は亡くなったらどこへ行くのだろうか」という問いかけから、「愛」、「死」、「生」の意味を問ひかけるヒューマンドラマ作品です。ぜひ鑑賞ください。

主催 兵庫腎疾患対策協会 共催 国際ソロプチミスト神戸東
前売券申込：兵庫腎疾患対策協会上映会係まで

info@hyojinkyo.org Fax 0797-32-9900 Tel 090-3717-4440(八馬)



兵庫県における臓器提供・移植医療の現在地 —地域で支える移植医療のこれから—

私が兵庫県の臓器移植コーディネーターとして採用されたのは 2019 年です。兵庫県では 2 人目の県コーディネーターとして活動を始め、今年で 7 年目を迎えました。当時、全国の死後臓器提供数は年間 100 件前後で推移していました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、移植医療も大きな制約を受ける時期がありましたが、近年は臓器提供数が増加傾向にあり、2025 年には全国で 150 件を超える提供が報告されるなど、臓器提供・移植医療を取り巻く状況は大きく変化しています。

提供数が増える一方で、課題となっているのが、臓器提供に対応できる施設の地域差です。臓器提供は、ドナーとなる可能性のある方が入院している病院だけで完結する医療ではありません。救急・集中治療、脳死判定、家族支援、手術室、検査部門、移植施設、日本臓器移植ネットワーク、都道府県コーディネーターなど、多くの職種と機関が連携して初めて成り立ちます。どの地域に住んでいても、ご本人やご家族の意思が尊重されるためには、地域全体で臓器提供を支える体制が必要です。

この課題に対応するため、2019 年から「臓器提供施設連携体制構築事業」が開始されました。兵庫県では 2021 年から、神戸市立医療センター中央市民病院を拠点施設として、県内 3 施設との連携から取り組みが始まりました。その後、2025 年からは、県内で多臓器移植を実施している神戸大学医学部附属病院に拠点を移し、現在は県内 13 の 5 類型施設と連携体制を結んでいます。5 類型施設とは、大学附属病院、救命救急センター、日本救急医学会指導医指定施設、日本脳神経外科学会基幹施設または連携施設、日本小児総合医療施設協議会会員施設などを指し、脳死下臓器提供において重要な役割を担う施設です。

この連携体制により、県内ではこれまで臓器提供を経験していなかった施設からも、新たに提供が行われるようになりました。連携開始後に初めて臓器提供を経験した施設は 3 施設あります。また 2024 年には、豊岡病院から、国内で初めて ECMO 装着下での脳死下臓器提供事例がありました。ECMO とは、心臓や肺の働きを補助する体外循環装置です。医療技術の進歩により、これまで判断が難しかった事例についても、医学的・倫理的に丁寧な検討を重ねながら、提供の可能性を考える時代に入っています。さらに今年は、国内初となる脳死下臓器提供を目的とした転院搬送も実施されました。これは、患者さんやご家族の意思を地域全体でどのように支えるかという点で、大きな意味を持つ出来事でした。

制度面でも、臓器提供・移植医療は大きな変化の中にあります。2010 年の改正臓器移植法以降、本人が「臓器を提供しない」という意思を示していない場合には、本人の意思が不明であっても、ご家族の書面による承諾で臓器提供が可能となりました。また、近年は精神疾患や知的障害等がある方の意思表示の取り扱いについても見直しが進められており、疾患や障害があるという理由だけで一律に除外するのではなく、個別の事例に応じて慎重に判断する方向で整理が進んでいます。

提供数の増加に対応するため、臓器あっせん体制も新しい段階に入っています。これまで、眼球を除く臓器のあっせん業務は日本臓器移植ネットワークが全国を担ってきましたが、2026 年 1 月には、一般社団法人中部日本臓器提供支援協会、通称 CODA が、厚生労働省から第 1 例目のドナー関連業務実施法人として許可されました。CODA は、東海・北陸地方の 7 県を対象に、コーディネーターの現地派遣、ドナー家族への説明・同意取得、臓器摘出チームの受け入れ調整などを担う法人です。また、コーディネーター不足への対応として、認定ドナーコーディネーター制度の整備も進んでいます。

兵庫県では、毎年 40 件程度のドナー情報があります。そのうち、実際に提供につながるのは 10 件前後です。各施設からいただく情報は、すでに前提条件が丁寧に確認されていることが多く、明らかな医学的禁忌の情報はほとんどありません。これは、県内の提供施設の理解と対応力が確実に高まっていることの表れだと感じています。特に今年は、新規施設からの報告や、患者さんご本人の意思が確認されている事例が多く、県民の皆さまの中にも、臓器提供に対する意識が少しずつ広がっているのかもしれない。



腎移植に関しては、心停止後の臓器提供においても腎移植チームとの連携が欠かせません。心停止後の提供では、腎臓提供が中心となることも多く、提供施設、腎移植施設、コーディネーターが迅速かつ丁寧に情報を共有する必要があります。提供の時だけ顔を合わせる関係であれば、ここまで円滑なコミュニケーションは難しかったと思います。しかし、兵庫腎疾患協議会の幹事会などを通じて、移植側の先生方とお話しする機会や、食事をしながら意見交換をする機会を設けていただきました。その積み重ねが、現場での信頼関係につながっています。県内の腎移植チームは非常に協力的で、県コーディネーターとしても日々多くの場面で助けていただいています。

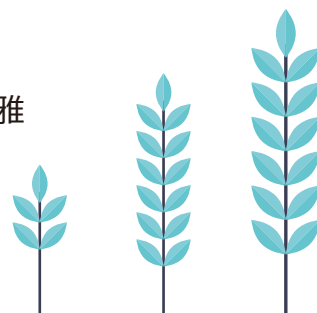
さらに、兵庫県腎疾患協会には、普及啓発活動にも大きなお力添えをいただいています。グリーンリボンをモチーフにしたチャームを作成していただき、高校生や大学生への出前講座などで毎年約 800 人に配布しています。



若い世代にとって、臓器提供や移植医療は、日常の中で考える機会が多いテーマではありません。しかし、チャームを手にとることが、命や医療、家族との話し合い、自分の意思を残すことについて考えるきっかけになります。このような普及啓発活動を継続できていることは、協議会の皆さまのご理解とご協力があってこそです。

臓器提供・移植医療は、医療者だけで進められるものではありません。患者さん、ご家族、提供施設、移植施設、行政、関係団体、そして地域の皆さまの理解と協力があって初めて成り立ちます。私は都道府県コーディネーターとして、提供現場と移植現場の双方に関わる立場から、今起きている課題や変化を、できるだけ現場の言葉で伝えていきたいと考えています。今後も、ご本人とご家族の意思が尊重される移植医療を、兵庫県の皆さまとともににつくっていきけるよう努めてまいります。

竹 田 雅



COLUMN

コラム no.6

「御 礼」

医療法人 たけだクリニック / 兵庫腎疾患対策協会 幹事

竹 田 雅

令和 7 年度臓器移植推進対策功労者として、当協会を通して兵庫県から推挙され、厚生労働大臣名でこの度表彰頂きました。この表彰については、以前に当協会自体やソロプチミスト様も団体で受賞、また個人の協会員でも多数の受賞者がいらっしゃいます。

思い起こせば、神戸大学病院にて移植医療にのべ 15 年程従事いたしました。当時は、移植腎の長期生着にプラスとなる新規免疫抑制剤が多数登場して、術後成績の向上に伴い、件数自体も増加途上でした。但し、移植医療への理解が現在程得られていなかった各種環境の改善、及びその下での今後の土台となるシステム構築が、振り返れば自身に課せられた職務だったと考えております。それが現在、どの程度還元できているかは不明ですが、今回、このような表彰を受けた事で、一定の評価を頂いたと自己判断しております。

当協会の活動には、病院の外に出て、白衣を脱いで参加する訳でしたが、とかく視野の狭い医療従事者(私だけ?)にとっては、社会勉強にもなりました。

現在は、兵庫県から離れた場所で、一町医者として余生を送っておりますが、引き続き何らかの形で貢献したいと思っております。移植医療はチーム医療であり、私個人の技量だけでは当然成立しません。あらゆる面から私を支えて頂いた協会関係者の方々をはじめ、スタッフの皆様に深謝いたします。

事業報告

2025 年度

(2025 年 5 月 1 日～2026 年 4 月 30 日)

- 1 第 35 回総会開催(2025 年 7 月 19 日 ホテル竹園芦屋)
- 2 総会特別講演会開催(2025 年 7 月 19 日 ホテル竹園芦屋)
「終末期の選択肢としての臓器提供」
講師 永嶋 太 医師 公立豊岡病院 但馬救急救命センター長
- 3 会報『Gift of Life』Vol.33 発行(6 月)
- 4 コーディネーターの兵庫県下学校への臓器移植
出前講座支援
配布する啓発グッズ(アクリルチャーム)を
制作配布(500 個)
- 5 ホームページバナー広告 2026 年度募集、掲載
(2026 年 1 月)
- 6 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植のための
講演会、シンポジウム、啓発事業などに協力する
 - ① 兵庫県健康財団主催
令和 7 年度「いのちの勉強会」後援
 - ② 兵庫腎友会主催
「兵庫慢性腎臓病シンポジウム」後援
(2026 年 3 月 1 日 尼崎市総合文化センター)

事業計画(案)

2026 年度

(2026 年 5 月 1 日～2027 年 4 月 30 日)

- 1 第 36 回総会開催(2026 年 7 月 18 日 ホテル竹園芦屋)
- 2 総会特別講演会開催
講師 剣持 敬 医師
日本臨床腎移植学会 理事長
藤田医科大学大学院 保健学研究科 教授
藤田医科大学病院 臓器移植科 教授
- 3 会報『Gift of Life』Vol.34 発行
- 4 Gift of Life 上映会 開催
(2026 年 9 月 26 日 13:00～ 芦屋市民センター ルナホール)
河瀬直美監督 「たしかにあった幻」
河瀬直美監督 トークショー
- 5 コーディネーターの兵庫県下学校への臓器移植
出前講座支援
配布する啓発グッズ(アクリルチャーム)を
制作配布(500 個)
- 6 ホームページバナー広告 2027 年度募集、掲載
- 7 当協会の目的とする腎疾患対策、腎移植推進のための
啓発事業を企画実行する
- 8 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植のための
講演会、シンポジウム、啓発事業などに協力する
- 9 その他

2026～27 年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

名誉会長	神戸大学名誉教授 医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 顧問	守 殿 貞 夫	会 長	医療法人協和会 副理事長	吉 永 和 正
副会長	兵庫医科大学特別招聘教授 てらおクリニック	野 島 道 生			
幹 事	いしむら腎泌尿器クリニック院長 神戸大学泌尿器科非常勤講師 石 村 武 志	おさこ小児科クリニック 院長 尾 迫 貴 章	エアー・ウォーター アエラスパイオ(株)代表取締役 菊 池 耕 三	兵庫県立西宮病院 泌尿器科部長 / 腎移植センター部長 岸 川 英 史	
	兵庫医科大学 腎・透析内科教授 血液浄化センター長 倉 賀 野 隆 裕	兵庫県臓器移植コーディネーター 午 堂 晴 菜	医療法人坂井瑠実クリニック 理事長 坂 井 瑠 実	兵庫県臓器移植コーディネーター 杉 江 英 理 子	
	兵庫県臓器移植協議会 事務局長 兵庫腎移植の会 副会長 高 見 敬 一	医療法人 たけだクリニック 理事 竹 田 雅	医療法人永仁会 理事長 永 井 博 之	兵庫医科大学 内科学 / 腎・透析科 准教授 長 澤 康 行	
	兵庫医科大学 名誉教授 特定医療法人五仁会 住吉川病院 名誉院長 中 西 健	神戸大学 名誉教授 医療法人 一陽会 服部病院 腎臓内科部長兼透析室センター長 西 慎 一	(有)芦屋川プランニング代表取締役 国際ソロプチミスト神戸東 八 馬 富 久 子	神戸大学大学院医学研究科 腎泌尿器科学分野 特命准教授 兵 頭 洋 二	
	神戸大学学長 藤 澤 正 人	NPO法人 兵庫県腎友会 会長 松 菱 理 恵 子	まつもと泌尿器科 院長 松 本 修	眼科医 安 井 多 津 子	
	兵庫医科大学 泌尿器科 講師 腎移植センター副センター長 山 田 祐 介	兵庫医科大学 泌尿器科 主任教授 腎移植センター長 山 本 新 吾	国際ソロプチミスト神戸東 代表担当幹事		
会計監査	国際ソロプチミスト神戸東会長				